



第55回福島県農業賞表彰式

9月9日(火)、福島市の杉妻会館において福島県農業賞表彰式が行われました。

福島県農業賞は今年で55回目を迎え、福島県、福島民報社、福島県農業会議などが主催となり、本県農業の振興と県民の農業への理解を深めることを目的として、経営改善や集団活動等に意欲的に取り組み、顕著な実績を上げられた農業者を表彰するもので、農業経営改善部門、集団活動部門・農村青年活動の部等に分かれており、表彰された方々は「農業十傑」と呼ばれます。

いわき農林事務所管内からは、木戸忠重・泰江ご夫婦が農業経営改善部門で受賞されましたが、忠重氏は、残念ながら今年の7月10日に病気のためお亡くなりになられたため、式には泰江さんと娘の久江さんが出席されました。

木戸ご夫婦は、水稻や菌床しいたけ栽培、お米の二次加工製品の生産に力を注いでいます。特に水稻については、平成17年にエコファーマーを取得して以後、長年にわたり環境に優しい農業生産方式を導入して良質な「いわき米」を生産しています。また、いわき市南部の稲作の作業受託にいち早く取り組み、年々受託面積を拡大し、地域の農業の担い手としての貢献が評価されて今回の受賞に至りました。

息子の安道さんが就農してからは、更なる受託面積の拡大と、米のインターネット販売にも力を入れ販路拡大を図っています。

式では、佐藤知事から「皆さんの受賞は、高い情熱で農業に取り組んできた成果であり、今後は受賞を契機としてそれぞれの地域の先駆者として今まで以上の活躍を期待しています。」と主催者代表のあいさつがありました。

また、受賞者には福島県知事賞、福島県農業会議賞、福島県農業協同組合中央会賞、ラジオ福島賞、福島民報社賞の賞状と記念品の楯等が贈られ、受賞者代表として、農林水産大臣賞を受賞した(有)しんかい農耕石田栄社長が謝辞を述べました。

今回受賞された「農業十傑」の皆様が地域農業のリーダーとなり、本県の農業を支える一翼となることが期待されます。



(佐藤知事との個別写真)



(全体写真の様子)



(市・農林事務所職員との記念撮影)
(企画部)



いわき市農産物直売所連絡協議会総会が開かれました

8月7日（木）、いわき新舞子ハイツにおいて、平成26年度いわき市農産物直売所連絡協議会の総会が開催されました。

この協議会は、いわき市内の農産物直売所間の連携と消費者との交流を促進するため、平成16年に設立され、現在35の直売所が加盟しています。

総会では、平成25年度事業報告、平成26年度事業計画が原案どおり承認されました。平成25年度は、いわき市内各地（21世紀の森公園、平中央公園、アクアマリンパーク、ニュータウンセンタービル駐車場）で開催されたイベントに計11日間、自慢の農産物や加工品を出展した他、須賀川・二本松の先進直売所の現地視察や、農業者パソコン講座への参加等、各種事業を行いました。平成26年度も積極的にイベント等に参加し、会員同士の連携強化や、直売所の活性化に取り組むことを確認しました。

総会後の情報交換会では、それぞれのグループが持ち寄った一品料理を味わいながら、料理のポイントや直売・加工の運営状況について積極的に意見を交換しました。



（総会の様子）



（情報交換会の様子）
（農業振興普及部）



高坂保育所で「ふれあい農業講座」を開催しました

8月22日（金）、いわき農業青年クラブ連絡協議会は、いわき市立高坂保育所において、園児66名を対象に「ふれあい農業講座」を開催しました。

本講座は、いわき市の農業をもっと知ってもらうために毎年開催しており、今回はいわき産昔野菜や旬の農作物、いわき市の農産物マスコットキャラクター「アグリ☆5」を紹介しました。

また、クラブ員が生産した野菜を使ったピザ作り体験を通して、園児との交流を図りました。園児たちは楽しそうにピザの具材を並べ、完成したピザを笑顔でおいしそうに食べていました。



（ピザ作りの様子）



（昔野菜を使ったピザ）
（農業振興普及部）





今年もおいしい 「サンシャインいわき梨」の 出荷が始まりました

8月18日（月）、市内小川町のJAいわき市梨選果場において、梨の選果と出荷を始める操業開始式が開催されました。

梨部会は、平成5年にJAいわき市管内での梨の共同選果を始め、光センサー選果機を利用して糖度や熟度、内部障害を判定し、一定以上の品質の果実を出荷しています。

当日は、いわき梨の出荷を喜ぶ関係者約70名が出席しました。梨部会の松本明能部会長は「今年の梨は天候に恵まれとてもよく仕上がっている。」、JAいわき市経営管理委員会の甲高光会長は「高値での取引を期待する。」と販売への意欲を表明しました。

また、来賓の松本登いわき農林事務所長から「いわきの梨はモニタリング検査を徹底し安全です。」との祝辞に続き、上遠野洋一いわき市副市長からは「なしポチと一緒にいわき梨をPRします。」と販売への意気込みを述べられました。

この後、いわき中央卸市場である(株)平果の鈴木光栄専務が販売宣言し、トラックに積み入れられる「サンシャインいわき梨」が選果場を出発しました。

出荷は、9月4日から「豊水」へ切替わり、9月25日から県オリジナル品種「涼豊」、10月9日から「新高」と続きます。それぞれに独特の風味があり、味の変化を楽しむことができますので、サンシャインいわき梨を是非ご賞味ください。



(なしポチ君も応援)



(梨の選果 (左は光センサー選果機))

(農業振興普及部)



「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを 開催しました

8月29日（金）、いわき市のスパリゾートハワイアンズにおいて、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

いわき市産の日本なしの美味しさと安全性について、首都圏の消費者へPRするため、スパリゾートハワイアンズから高速バスで首都圏に帰る約420人の宿泊客を対象として、旬の日本なしを無料で配布しました。

光センサーで選果された新鮮なサンシャインいわき梨は、皆さんに喜んで受け取っていただけました。

また、なしの安全性を確認したチラシも配布し、美味しさとともに安全性についても認識していただくことができました。

次のキャンペーンは、平成26年10月10日（金）11時からいわき・ら・ら・ミュウで開催する予定です。



(子供達にも喜んでいただけました)



(日本なしの配布状況)

(企画部)





いわき農林事務所管内 建設工事安全推進協議会

8月29日（金）、いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会が開催されました。

当協議会は、管内の土木業者33社といわき農林事務所構成し、労働災害の未然防止と労働者の安全衛生及び作業環境の向上を図るために設立された協議会で、今年度は約40名が出席しました。

冒頭で会長である松本登いわき農林事務所長が「労働災害の発生原因は、事前の対策不足がほとんどで、労働災害の防止には、日ごろの地道な活動が無事故・無災害につながる」と挨拶しました。

総会では、今年度の活動内容として、工事箇所の安全パトロールと現地検討会、現場代理人等を対象にした安全衛生教育研修会等の実施を全会一致で可決しました。

総会終了後、「建設工事における労働災害防止の徹底について」と題して、いわき労働基準監督署佐藤俊彦次長による講話をいただき、労働災害の発生状況や発生防止強化の取り組みについて説明を受けました。

参加者は、災害復旧工事等で発注件数が多いなか、労働災害の未然防止と労働環境改善が工事現場の早期完成につながることを再認識していました。



(協議会の様子)



(講話の様子)

(森林林業部)



平成26年度 飼料用米研修会

9月4日（木）、いわき新舞子ハイツで福島県水田農業産地づくり対策等推進会議による平成26年度飼料用米研修会が開催されました。

この研修会は、主食用米の需要減少等に対応するため、水田の有効活用による飼料用米の作付推進を目的としています。

研修会では、JA全農北日本くみあい飼料（株）より飼料用米の使用拡大に向けた取組、農林水産省東北農政局より飼料用米推進上の課題と解決策、JAいわき市よりJAにおける飼料用米の取組と題して、それぞれ講演がありました。参加者は、低コスト生産技術の取組事例や国の補助事業について熱心に耳を傾けていました。

また、現地研修会では飼料用米の「ふくひびき」、「べこごのみ」栽培ほ場において、生産者といわき農林事務所より栽培管理や生育状況について説明がありました。参加者は「ふくひびき」の草丈の低さに驚き、「倒伏に強いのではないか。」と話し、「収量はどのくらいか。」など積極的に質問していました。

本研修会を通して今後の飼料用米の作付推進に向け、多くの関係者が生産者と協力して進める必要があることを確認しました。



(研修会の様子)



(現地研修会の様子)

(農業振興普及部)



田んぼの学校 案山子(かかし)で鳥から 自分たちのイネを守ろう！！

9月9日(火)、いわき市立赤井小学校5年生児童58名といわき農林事務所職員による、田んぼの学校第3回活動「案山子作り」を行いました。

児童は8班に分かれ、事前に児童自ら作成した完成図をもとに、案山子製作に取り組みました。

各班毎にそれぞれ古着や手袋などの装飾品を持寄り、まず、丸めた新聞紙をカラーのビニール袋に詰めるなどして頭と胴体を作り、竹を組み合わせた骨組みに固定した後、装飾として麦わら帽子をかぶせたり、鳥避けにCDを取り付けたりするなど、思い思いの趣向を凝らした案山子8体を作り上げました。

出来上がった案山子を児童自ら学習田に運び、設置すると、その出来映えに子ども達はとても満足そうに、「人に見間違えるくらい良くてできた。」と喜んでいました。

5月に田植えをしてから約4カ月が過ぎ、収穫の秋を迎え、次回はいよいよ稲刈りを行います！



(かかし作りの様子)



(集合写真)

(農村整備部)



シラス試験操業

いわきでは、震災後初めてシラスの試験操業が始まりました。シラスはカタクチイワシの稚魚で、春と秋が漁期となります。シラスとして漁獲するのは生後2ヶ月程度の期間であることから、漁期中、新たに生まれたシラスが入れ替わりながら漁獲されます。

原発事故直後は放射性セシウム濃度が高かったものの、汚染水の影響をほとんど受けていないシラスに入れ替わったことによって、放射性セシウム濃度は速やかに低下し、数ヶ月程度でほぼ不検出となりました。昨年秋から試験操業に取り組む予定でしたが、汚染水漏洩の報道を受けて延期を余儀なくされ、漁期を逸したために今年開始となったものです。

これまで、毎週二回程度試験操業が行われ、1日当たり2トン前後の水揚げがあり、順調に経過しています。いわきで漁獲されるシラスは、全て茨城県の加工業者に出荷され、シラス干しに加工された後に市場に出回ります。今後、いわき市内のスーパーでも見かけることが多くなると思います。

そのまま大根おろしと一緒に食べるのもよし、かき揚げ風に天ぷらにするのも美味しいです。新鮮で美味しいいわき産のシラスをぜひご賞味ください。



(水揚げの様子)



(いわき産シラス)

(水産事務所)



夏井地区基盤整備工事 安全祈願祭が開催されました！

9月9日（火）、下大越・藤間ほ場整備組合、受注業者の主催による復興基盤総合整備事業（農地整備）夏井地区の安全祈願祭が平下大越地内において開催されました。

式典には、受益者、愛谷堰土地改良区、いわき市、いわき農林事務所等関係者約60名出席のもと、関係者代表が鍬入れ等を行い工事期間中の安全を祈り、関係者からは、地域農業に対する熱い想いや事業への強い期待が多く聞かれました。

当該事業は、東日本大震災による津波被害を受けた農地等を地域農業の復興に向けて整備するもので、平成25年度に県営農地整備事業（整備面積A=154.7ha、事業費29億5,000万円）として事業採択され、ようやく工事着工の運びとなり、いわき市内では、下仁井田地区（四倉町）、錦・関田地区（錦町、勿来町）に続いての着工となり、市内で計画する3地区全てで復興基盤整備工事が本格化します。

また、本地区は標高が低い沿岸部に位置し、もともと藤間川、滑津川沿いの一部の農地では、潮位の影響により自然排水が困難となっていました。大震災により地盤沈下が発生し、更に排水状況が悪化したことから、農地の区画整理と併せて、大越藤間第二排水機場（藤間川）の機能強化、上大越（夏井川）及び下高久（滑津川）に小型ポンプ設備を新設して、排水対策を強化することとしています。

今後は、夏井地区の農業復興に向け、受益農家、地域住民、施工業者及び行政機関等関係者と一体となり、優良な工事と生産性の高い農業経営の実現を目指していきます。



（鍬入れの様子）



（工事予定地）

（農村整備部）



野生きのこの摂取制限及び 出荷制限について

野生きのこのシーズンを迎えようとしています。

福島県では、平成23年度から実施している放射性セシウムのモニタリング検査の結果、複数の市町村で採取された野生きのこから食品衛生法の基準値（100Bq/kg）を超える放射性セシウムが検出されたため、下記の市町村において摂取、出荷が制限されています。


いわき市の野生きのこについては、摂取及び出荷が制限されていますので、採取を行わないようにしてください。

野生きのこが摂取制限及び出荷制限 となっている市町村（9月25日現在）

■ 摂取制限：	いわき市、南相馬市、棚倉町	計	3市町村
■ 出荷制限：	中通り	全	29市町村
	浜通り	全	13市町村
			（いわき市を含む）
	会津		12市町村
	計		54市町村

（森林林業部）



 「ふくしま むらの輝き
2014」
写真コンテスト 作品募集！！

農村には、四季折々の自然、農業の営み、そこでの暮らしが織りなす独特の文化・歴史・景観など、都会では見られなくなってしまったものがたくさんあります。私たちは、この風景をいつまでも大切に残していかなければなりません。

県では、福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会（以下、協議会）と共に、県内の活動組織が多面的機能支払事業（旧・農地・水保管理支払事業）を活用し、知恵と工夫を重ね、農業・農村の維持保全を行う活動を支援しています。

協議会では、多くの県民の皆さんにこの事業と活動を知っていただき、農業・農村に対する理解が深まることを目的に、毎年「ふくしま むらの輝き」写真コンテストを実施しています。只今作品募集中ですので、奮ってご応募ください。入賞賞金もありますよ！

○テーマ（2つ）

- ・県内の農村における地域ぐるみの活動
- ・県内の農村風景

○応募対象及び作品数

県内在住者を対象とする
（応募作品数はお一人様3点以内）

○応募方法・問合せ先

協議会ホームページから応募用紙をダウンロード（『福島地域協議会』で検索！）

協議会事務局：電話0245-35-0335

○応募締切

平成26年10月31日（金）

当日消印有効

○事業の詳細について

制度の概要は協議会ホームページ又はいわき農林事務所農村整備課（電話0246-24-6185へ）



地域ぐるみ活動の部 2013コンテスト 優秀賞

「学校田の稲刈り」斎藤 竹男さん

（2013年度入賞作品より）

（農村整備部）

 いわき地方の農林畜産物
モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の8月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

検査した13品目30検体のすべての品目・検体において、放射性セシウムは検出限界値以下でした。内訳は（表1）のとおりです。

（表1）セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

トウガラシ 1、ナス 2、オクラ 1、ダイコン 1、イチジク 3、日本ナシ 4、パッションフルーツ 1、菌床しいたけ(施設) 3、菌床なめこ(施設) 3、エリンギ 1、小麦 2、牛肉 4、原乳 4
--

8月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されている品目は、（表2）のとおりです。

（表2）出荷制限及び出荷自粛品目（8月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 (9品目)	野菜・根菜・芋類	—
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、たらめ（野生のものに限る）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛 (1品目)	畜産物	—
	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成25・26年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、ご確認ください。

（企画部）



いわき花き鉢物研究会が生産している季節の鉢花

いわき市役所といわき合同庁舎では、いわき花き鉢物研究会が生産している鉢花の展示をしています。今月紹介する鉢花はガーデンシクラメンと観賞用トウガラシです。

まず、ガーデンシクラメン（サクラソウ科）を紹介します。ガーデンシクラメンは、近年のガーデニングブームで注目されるようになりましたが、「ミニシクラメン」に分類されます。

年末に出回る一般的なシクラメンより丈夫で、南関東以南では屋外に植え付けても越冬が可能とされています。

次に、観賞用トウガラシ（ナス科）を紹介します。観賞用トウガラシは、熱帯性の高温植物で、夏から秋にかけて色づく実を楽しむ一年草です。

実の色は赤、オレンジ、黄、紫、クリーム色等で、形や大きさも様々です。同じ株でも、結実の時期や熟期が異なることで、様々な色の実となるため、その変化も楽しめます。（農業振興普及部）



(ガーデンシクラメン)



(観賞用トウガラシ)

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報

(1) モニタリング情報検索

(2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」

及び「原発事故」からの
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>

いわき農林水産ニュース

